

労働災害事故事例 報告書

死傷負傷事故・ひやりはっと実態調査

(令和6年4月～令和7年3月)



一般社団法人東北測量設計協会では、平成7年度に事故防止委員会を設置して以来、労働災害の未然防止を目的とした継続的な活動を展開してまいりました。平成26年度からは、会員の皆様を対象に「労働災害アンケート調査」を実施し、その結果を毎年度報告書として取りまとめ、発行しております。この取り組みは、業界全体の安全意識向上と労働環境の改善に寄与する重要な活動として位置づけられています。

令和6年度においても、63社中60社、回収率95.2%という非常に高いご協力を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。この高い回収率は、会員の皆様が安全管理の重要性を深く認識され、本調査の意義をご理解いただいている証であり、私たちにとって大きな励みとなっております。

本年度の調査結果では、重大災害である死亡事故の発生が確認されなかったことは、会員各位による安全管理の徹底が成果として現れているものと考えられます。一方で、負傷事故は東北全体で13件と、前年度と同数で推移しており、依然として注意を要する状況が続いております。県別の内訳は、青森県1件、岩手県1件、秋田県1件、宮城県2件、山形県3件、福島県5件と、各県で大きな変動は見られませんでした。いずれも引き続き警戒と対策が求められる状況です。

特に注目すべき点として、蜂などの小動物による負傷事故が前回の3件から7件へと増加していることが挙げられます。自然環境下での業務が多い我々の業種において、こうした予期せぬ外的要因への備えはますます重要となっています。また、近年は全国各地で熊の出没が相次ぎ、人的被害の報道も増加しています。山間部での作業時には、単独行動を避ける、音を出すなどの基本的な対策を徹底するとともに、地域の熊出没情報に常に注意を払うことが求められます。これらのリスクに対する具体的な対策を業界全体で共有し、実践していくことが重要です。さらに、物損事故については20件のうち9件が交通事故であり、全体の約半数を占めています。運転中の確認不足や不注意が主な原因であり、これまで以上に社内での安全運転教育や日常的な啓発活動を強化する必要があります。特に、長時間運転や慣れによる注意力の低下を防ぐための取り組みが求められます。

技術委員会では、これらの調査結果や事例を広く共有し、会員の皆様とともに「事故ゼロ」を目指してまいります。ヒヤリ・ハットを含む情報は、まさに“未然に防ぐ”ための貴重な気付きであり、これらを一つひとつ積み重ねていくことが未来の事故防止につながります。業界全体で安全文化を醸成し、さらなる労働環境の向上を目指していきましょう。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました会員の皆様、ならびに集計・編集作業に尽力いただいた委員、事務局、関係各位に深く感謝申し上げます。今後とも、より安全で安心な労働環境の実現に向けて、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年10月 1日

一般社団法人東北測量設計協会

技術委員会委員長 加藤 一也

1. アンケート回収率

	第16回調査			第15回調査		
	令和6年4月～令和7年3月			令和5年4月～令和6年3月		
	会員数	回答数	回収率	会員数	回答数	回収率
青森県	10	9	90.0%	10	8	80.0%
岩手県	10	10	100.0%	11	9	81.8%
秋田県	9	8	88.9%	8	8	100.0%
宮城県	10	9	90.0%	10	8	80.0%
山形県	14	14	100.0%	14	13	92.9%
福島県	10	10	100.0%	10	10	100.0%
計	63	60	95.2%	63	56	88.9%

今調査は95.2%とここ数年では最も高い回収率でした。会員の皆様には引き続きご協力をいただき、労働災害防止の啓発に取り組んでまいりたいと考えております。今後も継続的にアンケート調査をいたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2. 労働災害の発生件数

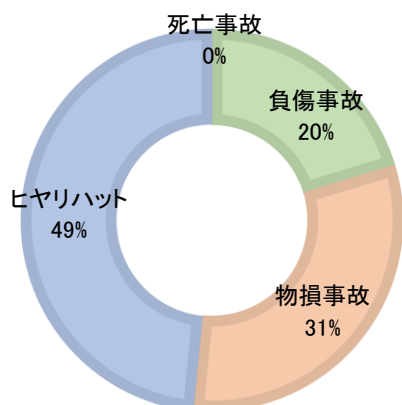
		青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計
前回まで	死亡事故	0	2	2	1	0	1	6
	負傷事故	57	67	33	75	39	62	333
	物損事故	25	26	14	108	43	24	240
	ヒヤリハット	33	90	62	69	73	289	616
今回	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	1	1	1	2	3	5	13
	物損事故	0	3	1	6	1	9	20
	ヒヤリハット	0	14	7	2	5	3	31

※前回までとは昭和50年～令和6年3月までの累計調査件数

※今回とは令和6年4月～令和7年3月までの累計調査件数

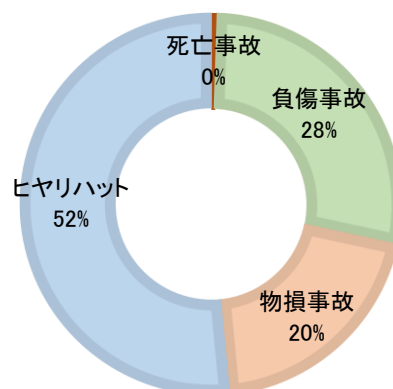
労働災害の発生割合（今回）

■ 死亡事故 ■ 負傷事故 ■ 物損事故 ■ ヒヤリハット



労働災害の発生割合（前回まで）

■ 死亡事故 ■ 負傷事故 ■ 物損事故 ■ ヒヤリハット

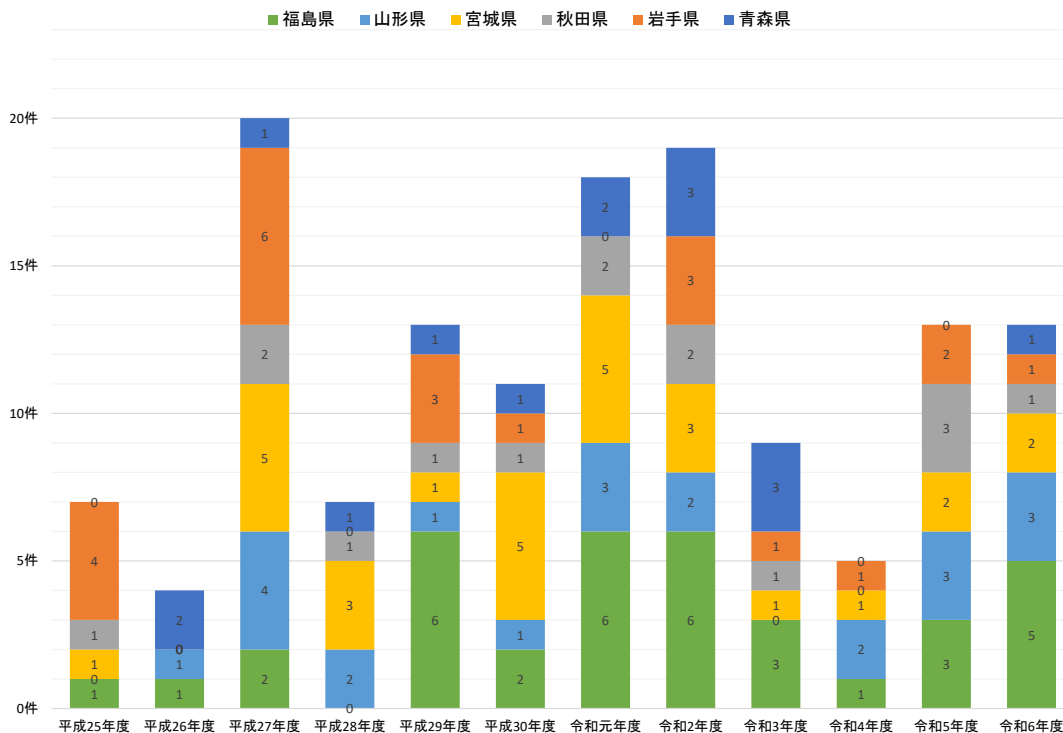


令和6年度の労働災害件数は64件で、昨年度より5件の増加となりましたが今回の調査でも死亡事故の発生はありませんでした。負傷事故と物損事故は同数で、ヒヤリハットが5件増加しました。

※前回までのデータは昭和50年～令和6年3月までの累計割合(%)

3. 負傷事故（労働災害）発生推移

負傷事故発生推移



負傷事故は前年度と同数の13件と横ばいでした。岩手県で1件、秋田県で2件の減、青森県で1件、福島県で2件増という結果でした。

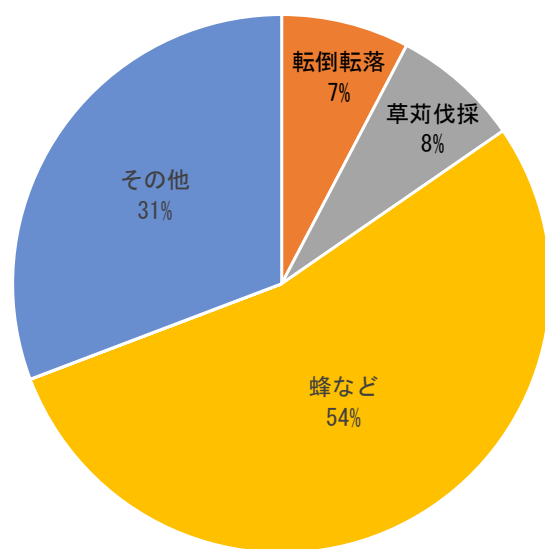
4. 負傷事故構成年度別

	交通事故	転倒転落	草苧伐採	蜂など	機材	ハンマー・杭	ボーリング	遭難事故	落雷感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
平成25年度	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
平成26年度	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
平成27年度	2	1	1	10	0	2	0	0	0	0	0	0	4	20
平成28年度	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	7
平成29年度	0	3	2	4	0	0	1	0	0	0	0	1	2	13
平成30年度	0	5	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11
令和元年度	2	7	0	5	0	0	1	0	0	0	0	1	2	18
令和2年度	1	9	3	4	0	0	0	0	0	0	1	1	0	19
令和3年度	0	1	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	2	9
令和4年度	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
令和5年度	0	9	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
令和6年度	0	1	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	4	13

今回の調査では、昨年最も多かった転倒転落による負傷事故が9件から1件と激減した一方、昨年度3件発生した蜂などによる負傷が7件と大きく増加しました。その他の事例も4件と多く、柵を跳び越えようとして負傷したなど、不注意の事例が多いようです。引き続き、会員皆様の労働災害防止の啓発をお願いいたします

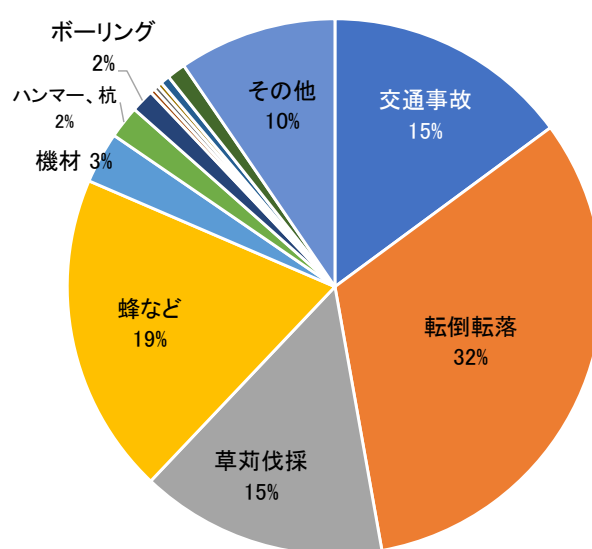
。

負傷事故の構成割合
(今回)



■ 交通事故 ■ 転倒転落 ■ 草苧伐採 ■ 蜂など
■ 機材 ■ ハンマー、杭 ■ ボーリング ■ 遭難事故
■ 落雷・感電 ■ 落石 ■ UAV ■ 点検
■ その他

負傷事故の構成割合
(前回まで)



■ 交通事故 ■ 転倒転落 ■ 草苧伐採 ■ 蜂など
■ 機材 ■ ハンマー、杭 ■ ボーリング ■ 遭難事故
■ 落雷・感電 ■ 落石 ■ UAV ■ 点検
■ その他

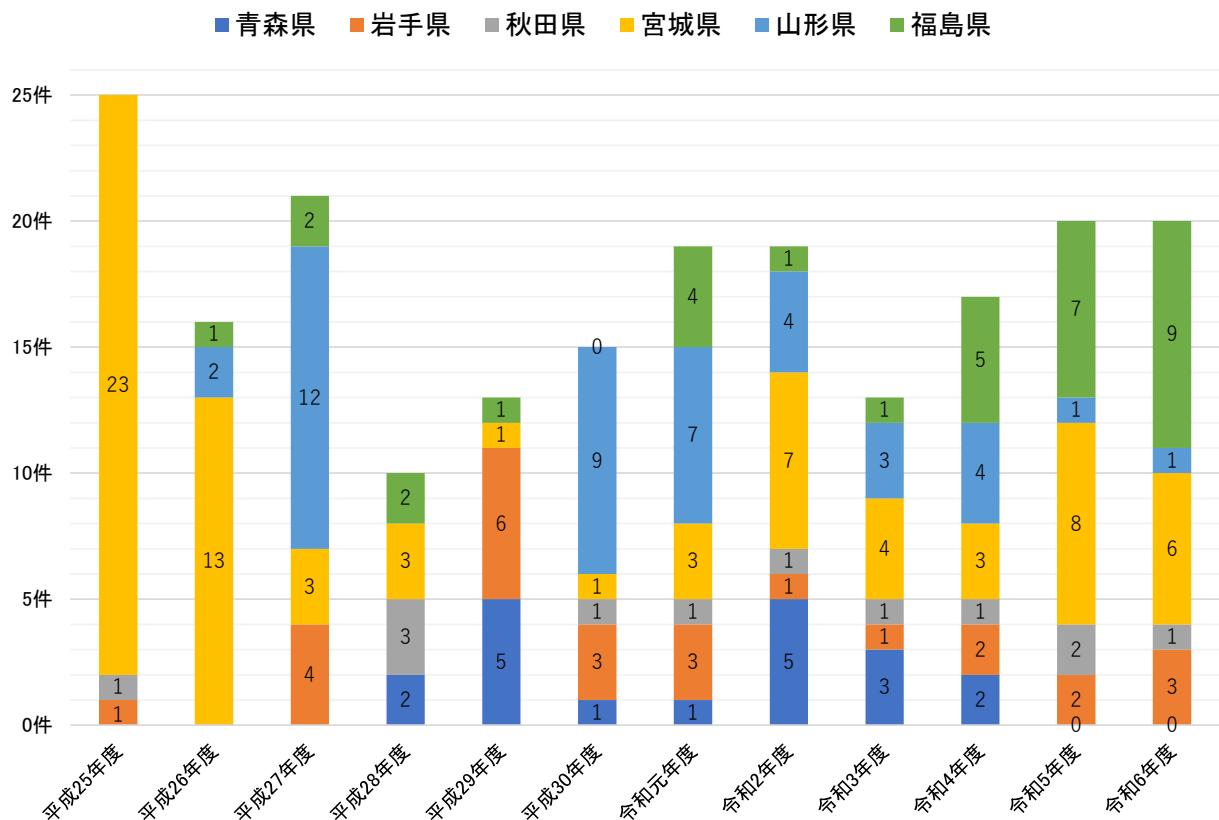
※前回までのデータは昭和50年～令和6年3月まで、今回は令和6年4月～令和7年3月までの累計割合(%)

5. 負傷事故（労働災害申請）おもな事例

所在	発生日	災害内容	発生概要及び原因
青森県	2025年3月24日	その他	柵を跳び越えようとして足首を捻挫した
岩手県	2025年3月27日	その他	石垣を降りている途中、高さ50cm程度の高さから飛び降りた際に、石垣の途中に鉄筋(草に隠れて見えなかった)があり鉄筋に膝をぶつけて負傷し
秋田県	2025年1月15日	その他	凍結した路面で転倒した。転倒した際に右手を車のフロント部分に着き支えたため右肩に激痛があり右腕を動かせなくなった。
宮城県	2024年11月13日	転倒・転落事故	農業用水路のコンクリート幅を測量中、コンクリート上の土泥で足を滑らせ転倒。転倒した際に路肩のコンクリートに右肩を強打した。
山形県	2024年8月1日	熊・蜂・蛇などによる事故	道路崩壊箇所の調査中に、蜂に左手の指を3か所刺された。
福島県	2024年8月28日	立木伐採・草刈等による事故	伐採作業中に鉋(なた)で左膝を損傷した。

6. 物損事故発生推移

物損事故発生推移



物損事故は、前年度と同数の20件と横ばいでした。

7. 物損事故構成年度別

	交通事故	転倒 転落	草刈 伐採	蜂など	機材	ハンマー 杭	ボーリング	遭難 事故	落雷 感電	落石	UAV	点検	その他	計
平成25年度	23	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	25
平成26年度	15	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	16
平成27年度	12	1	0	0	3	0	1	0	0	0	2	0	2	21
平成28年度	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10
平成29年度	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	13
平成30年度	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	15
令和元年度	9	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	2	4	19
令和2年度	9	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	6	19
令和3年度	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	13
令和4年度	13	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	17
令和5年度	12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	5	20
令和6年度	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	9	20

前年度と比較して交通事故の件数は3件減少した一方で、その他の物損事故が4件増加しました。

また、UAV事故も昨年0件に対し2件発生しました。事故防止の意識を持って細心の注意を払いながら、業務の遂行をお願いいたします。

8. 物損事故事例

県名	発生日	災害内容	発生概要及び原因
岩手県	2024年10月26日	その他	社内に設置していた表示用タブレットのバッテリーが膨張していた。
岩手県	2025年1月17日	交通事故	発注先事務所の駐車場に駐車していたところ、隣の車両の運転手が降車時にドアが風にあおられ、当方車両にぶつかり当方車両のドアミラーが破損した。
秋田県	2024年10月25日	UAV	UAVの破損 現地調査で構造物に接近した際、突風により衝突し、川に水没した。
宮城県	2025年8月21日	その他	社有車で岩に接触
山形県	2025年2月3日	UAV	ドローンを上空でホバリングしていたところ、猛禽類の襲撃により落下した。
福島県	2024年4月2日	交通事故	打合せに出かけるため、会社駐車場からバックで車道に出たところ、後方の確認を怠り、停車していたトラックに追突した。
福島県	2024年10月4日	交通事故	反対車線にUターンしようとした際、右車線後方を走行していた車両に気づかず、当方車両の右前部と相手車両の左後部が接触した。

9. ヒヤリハット報告件数

	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計(件)
平成25年度	0	0	2	3	0	3	8
平成26年度	1	1	3	6	5	5	21
平成27年度	0	2	5	6	2	7	22
平成28年度	5	13	8	7	5	6	44
平成29年度	3	11	6	4	1	4	29
平成30年度	2	6	4	8	3	3	26
令和元年度	4	11	4	13	6	3	41
令和2年度	0	10	5	3	10	6	34
令和3年度	0	4	10	2	4	14	34
令和4年度	0	3	2	2	7	5	19
令和5年度	1	7	2	0	10	6	26
令和6年度	0	14	7	2	5	3	31
県別合計	18	84	61	58	58	67	346

ヒヤリハットは、事故に至る可能性のあった出来事の「発見」です。ヒヤリハットの事例を共有・周知することにより意識向上、対策により重大な事故が防止できます。

10. ヒヤリハット構成

	交通事故	転倒 転落	草薙 伐採	蜂など	機材	ハンマー 杭	ボーリング	遭難 事故	落雷 感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
平成29年度	2	14	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	9	29
平成30年度	2	8	3	2	0	0	0	0	0	0	3	2	6	26
令和元年度	8	7	1	6	0	0	1	0	0	1	4	1	12	41
令和2年度	5	12	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3	11	34
令和3年度	7	9	0	4	0	0	0	0	0	1	2	3	8	34
令和4年度	2	10	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	3	19
令和5年度	6	6	2	6	0	0	0	0	0	1	1	0	4	26
令和6年度	6	12	2	1	0	0	0	0	0	1	1	1	7	31

今回の調査では前回よりも多い31件の報告がありました。内容として、転倒転落次いで交通事故が多く報告されています。最も多い転倒転落は、不注意や不安全行動が要因のようです。その他の事例の中には熱中症症状が見られました。対策が法令化されたこともあり、猛暑に備えた対策が必要です。

ヒヤリハットは日頃のKY活動で防ぐ事が出来ることから、些細なヒヤリハットを見逃さずにしっかりと対策する事で、重大な事故を未然に防ぐ事ができます。会員皆様の職場での周知徹底を引き続きよろしくお願いいたします。

1 1. ヒヤリハット報告事例

報告されたヒヤリハットの中から10例を報告します。

所在	発生日	発生概要
岩手県	2025年3月11日	<u>竹の切株に長靴の底が刺さってしまった。</u>
		●状況及び原因 立木調査時に竹藪をかき分けて進んでいた。
		●反省点 竹の切り株があるかもしれないという予測が足りなかった。
		●再発防止策 ①足元がよく見えない状況であっても、危険性を予測し慎重に移動する。 ②竹藪には切り株があるかもしれないことを、KY活動で作業員に周知する。
岩手県	2025年1月18日	<u>前方の信号が赤信号であることに気付くのが遅れてしまった。</u>
		●状況及び原因 運転中にカーナビを注視しすぎてしまった。
		●反省点 ①慣れていない道で、カーナビに意識が向きすぎていた。 ②カーナビの操作は走行中に行うべきではなかった。
		●再発防止策 ①カーナビの操作は停車中に行う。 ②慣れない場所の運転は焦らずゆっくり運転するように心がける。
岩手県	2025年2月27日	<u>長靴が滑り、川の中に引きずられた。</u>
		●状況及び原因 河川測量時に横断方向にロープを張り、船を使って測量していた。突風でロープに引っ張られた。
		●反省点 ①河川は、コンクリートや岸辺に水草やコケなどが生え滑りやすいので、スパイク長靴にすべきだった。 ②河川周辺では地上作業でもライフジャケットを着用すべきだった。
		●再発防止策 ①スパイク長靴を着用する。 ②ライフジャケットを着用する。

所在	発生日	発生概要
宮城県	2024年9月10日	<u>滑って転びそうになった。</u>
		●状況及び原因 川を渡る際に、玉石の上に足を置いた。
		●反省点 靴底がすべりにくいものを使用していたため、油断していた。
		●再発防止策 ポールなどで水深や滑らないか現地状況を確認し、焦らず川を渡る。
山形県	2024年7月17日	<u>具合が悪くなった。</u>
		●状況及び原因 猛暑日に作業を行った。
		●反省点 猛暑日は作業を中止する。
		●再発防止策 熱中症指数計を携帯し、こまめに休憩し熱中症を防止する。
山形県	2024年11月21日	<u>斜面でしりもちをついた。</u>
		●状況及び原因 用地測量作業中であった。
		●反省点 ツルの上を踏んでしまい、体制を崩して転んでしまった。スパイク付き長靴も少し劣化していた。
		●再発防止策 足元をよく観察し慎重に斜面を歩くように心がける。長靴の使用状態も確認し劣化していれば新しい長靴に交換する。
秋田県	2024年5月16日	<u>車両底面にあるガソリントankを損傷し、漏れた。</u>
		●状況及び原因 林道走行中路面の陥没や転石等の悪路走行時だった。
		●反省点 ①悪路走行時の慎重な運転が必要だった。 ②現場に応じた車両選定を行うべきであった。
		●再発防止策 発生事例を共有し、現場走行時の安全教育を行う。

所在	発生日	発生概要
秋田県	2024年10月30日	<u>橋梁点検時に、ドローンを落下させた。</u>
		●状況及び原因 周囲が保安林のため枝の伐採が困難であり、全方位ビジュアルセンサー搭載ドローンによる点検を行っていた。
		●反省点 ビジュアルセンサーの性能（明暗、感知サイズ）に対する理解が不足していた。
		●再発防止策 機体性能・使用推奨環境の把握と飛行前に現地でセンサーの感知確認を実施する。
秋田県	2024年12月5日	<u>橋梁点検車のバケットが、橋脚に衝突しそうになった。</u>
		●状況及び原因 バケットからの指示で前進していたが、途中で無線が切れストップのという指示が運転手に届かなかった。
		●反省点 指示が無いため、そのまま進んで良いものと安易に考えていた。
		●再発防止策 バケットからの指示では常にオーライ等の声を出し続け、運転手側でその声が聞こえなくなった時点で何らかの異常があったものと判断し、橋梁点検車を止め、バケット側と確認するよう指示をした。
福島県	2024年11月1日	<u>斜面の落石が転がり、下部で作業していた人に当たりそうになった。</u>
		●状況及び原因 斜面を下る際に落石が点在しており、足を踏み外して落石が下部に転がった。
		●反省点 ①足元に落石があることへの認識が浅かった②斜面を下る際に下部に人が居ないか確認しなかった③下部で作業している人は安全な場所へ退避しなかった
		●再発防止策 ①現場立入りの際は周辺状況を十分把握する。 ②単独の行動を避け、周囲の安全を確認しながら調査すること。